

# 動物と鳥の島

数え方の島々に、動物や鳥たちがくらしています。  
よく見ると、ちょっとめずらしい数え方があったり、  
同じ動物でもあちこちの島にいたりするのに  
気づきませんか？



匹

ひき

蹄

耳

みみ

面

めん

頭

とう

羽

わ



# 動物の数え方には ヒミツのルールがあった！

みなさんは、動物の数え方って知っていますか？

ネコが1匹、イヌが1匹、キリンが1頭……。「匹」や「頭」が代表的な数え方です。この「匹」と「頭」、じつは使い分けのルールがあるんですが、わかりますか？



パンダの  
赤ちゃん  
1匹

パンダ1頭

キリン1頭

もうわかりましたね！ こたえはこちら！

## ルール

- \* 人間より小さい動物は「匹」で数える。
- \* 人間より大きい動物は「頭」で数える。



ここでもう1度、「匹」の島と「頭」の島を見てください。

## 匹の島

ネコ、イヌ、サルなどは、人間より小さいので「匹」で数えます。パンダはふつう「頭」で数えますが、赤ちゃんのうちは、人間より小さいので「匹」で数えます。



## 頭の島

ライオン、キリン、ウマなど、人間より大きな動物は「頭」で数えます。でも、人間より小さな動物もまじっていますね。これについては、つぎのページで説明します。





# 飛べる鳥は「羽」で数える。 飛べない鳥はどう数えるの？



こんどは、鳥の数え方について考えてみましょう。

鳥はふつう、「羽」で数えますよね。その理由はとっても単純！ 鳥には羽があるからです。インコやスズメのように小さくても、ワシのように大きくても、「羽」で数えます。卵からかえったばかりの、完全な羽をもたないヒナも同じです。

ただし注意が必要です！ やはりこれにも例外があります。



ダチョウは地球最大の鳥！ 体重100kg・体長2mとからだが大きいので、「羽」だけでなく、「頭」で数えることもあります。

ペンギンは、空を飛べないことから「匹」で数えることもあります。

クジャクは、「面」で数えることもあります。羽をいっぱい広げると、まるで扇のような姿をしていますよね。それで、扇の数え方と同じ「面」で数えられるようになったのです。



## ルール

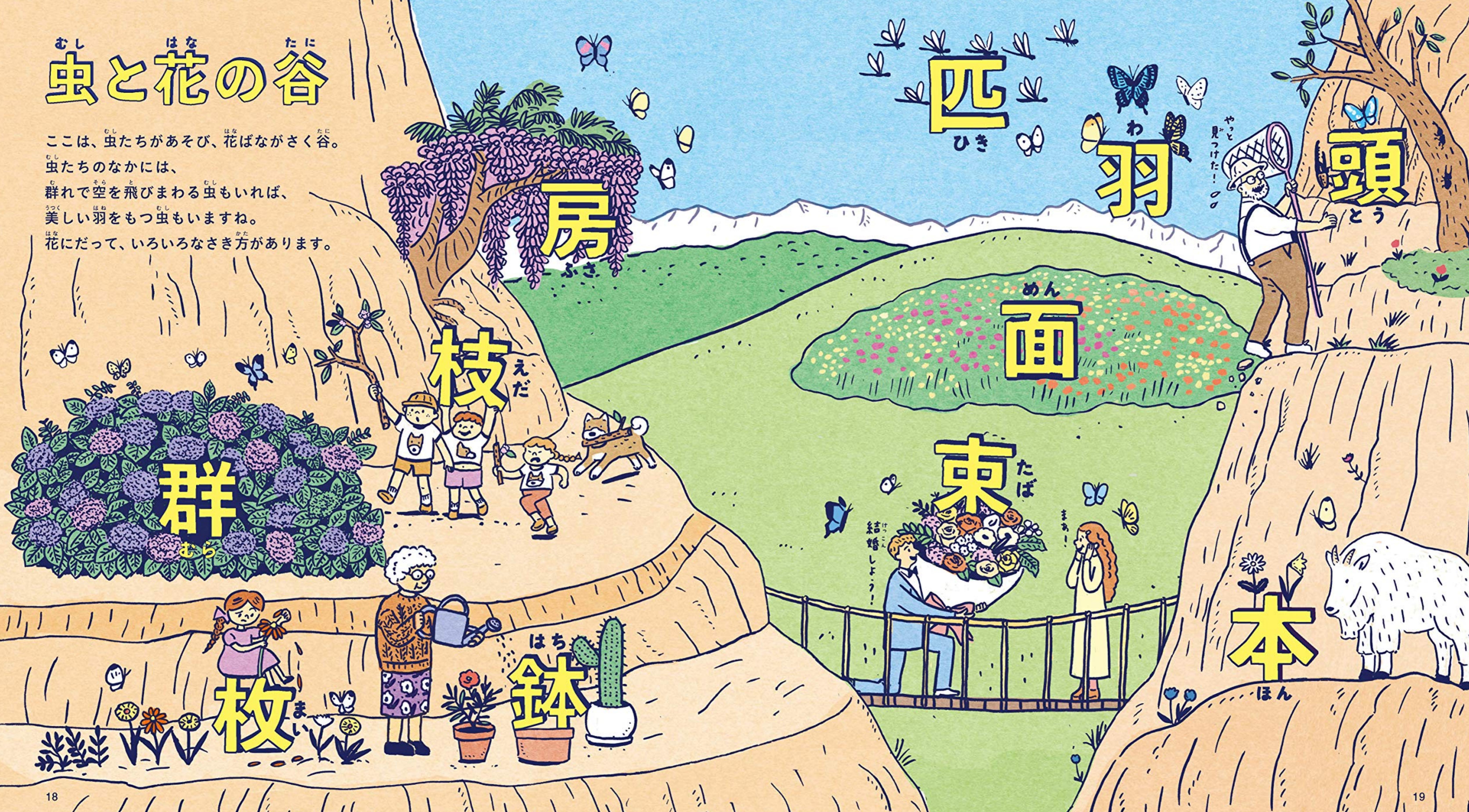
- \* 鳥は大きさに関係なく「羽」で数える。
- \* ダチョウは「頭」、ペンギンは「匹」、クジャクは「面」で数えることもある。





# 虫と花の谷

ここは、虫たちがあそび、花ばながさく谷。  
虫たちのなかには、  
群れで空を飛びまわる虫もいれば、  
美しい羽をもつ虫もいますね。  
花にだって、いろいろなさき方があります。



房  
ふさ

枝  
えだ

群  
むら

枚  
まい

鉢  
はち

匹  
ひき

羽  
わ

頭  
とう

面  
めん

東  
たば

本  
ほん



# チョウは「匹」だけでなく「頭」で数えることもある！

昆虫の数は、みなさん知っていますよね。「セミ1匹」「トンボ1匹」……そのとおり！「匹」です。ところが、チョウは昆虫なのに、「匹」以外に「頭」で数えることもあるのです！ いったいなぜでしょう？

## 説 1

英語の「head」をそのまま訳したから

明治時代のはじめごろ、英語で書かれた論文ではチョウを「One head」「Two heads」というように、頭を意味する「head」で数えていました。それをそのまま訳して、「頭」と数えたという説があります。



## 説 2

チョウの標本は頭が重要だから

チョウの標本をつくる時には頭があることが重要なので、「頭」で数えるようになった、という説もあります。



また、チョウはガと同じような姿をしていますが、美しい羽をもっているため、「羽」で数えることもあります。

チョウ以外の昆虫も「頭」で数えることがある

「頭」で数えるのは、チョウだけではありません。めずらしい昆虫や、人間にとって価値のある昆虫は、「頭」で数えることがあります。

### ルール

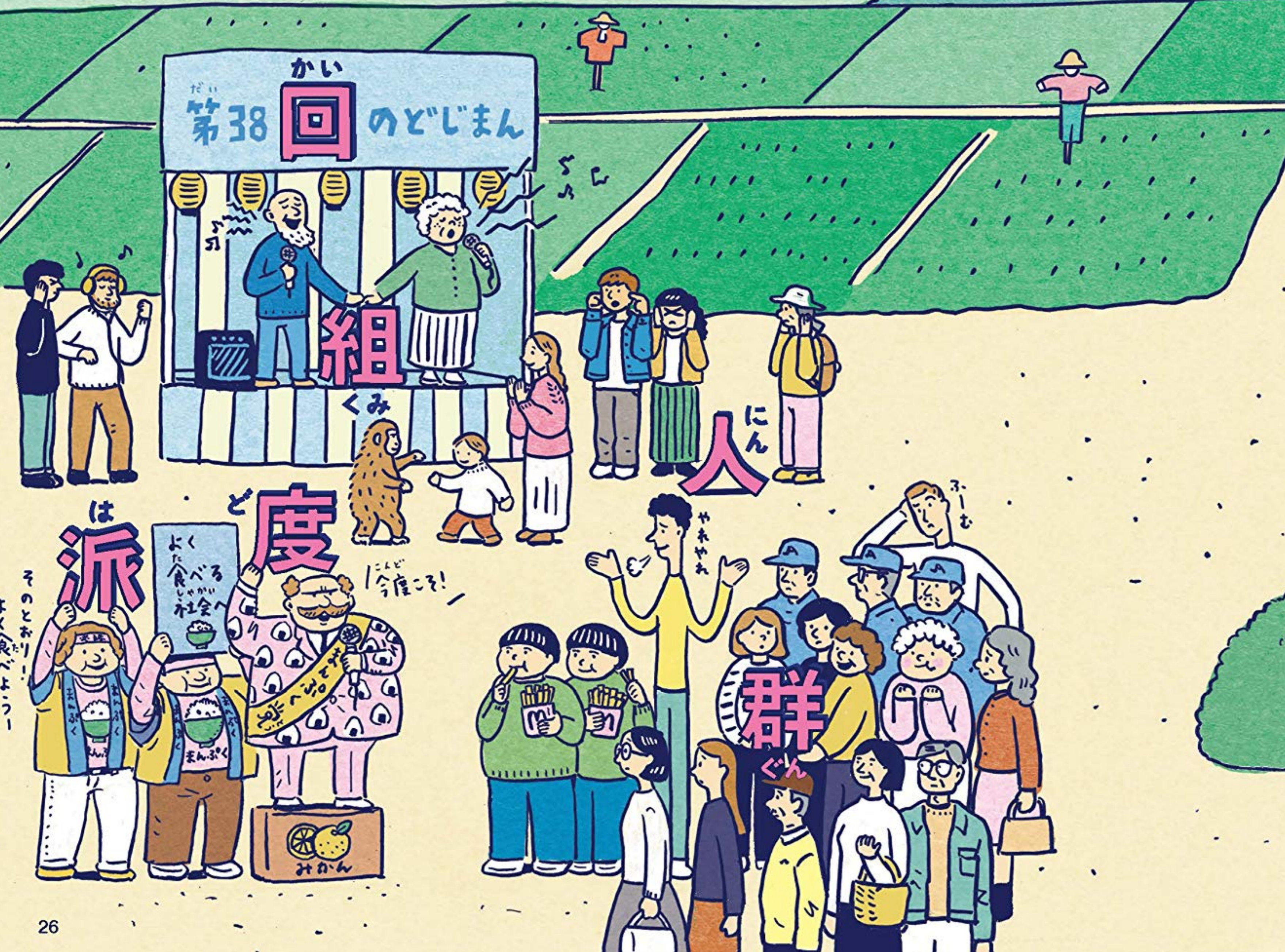
- \* 昆虫は「匹」で数える。
- \* チョウは「匹」のほかに「頭」「羽」で数えることもある。
- \* 人間にとって価値のある昆虫は「頭」で数えることがある。





# ひとびとの村

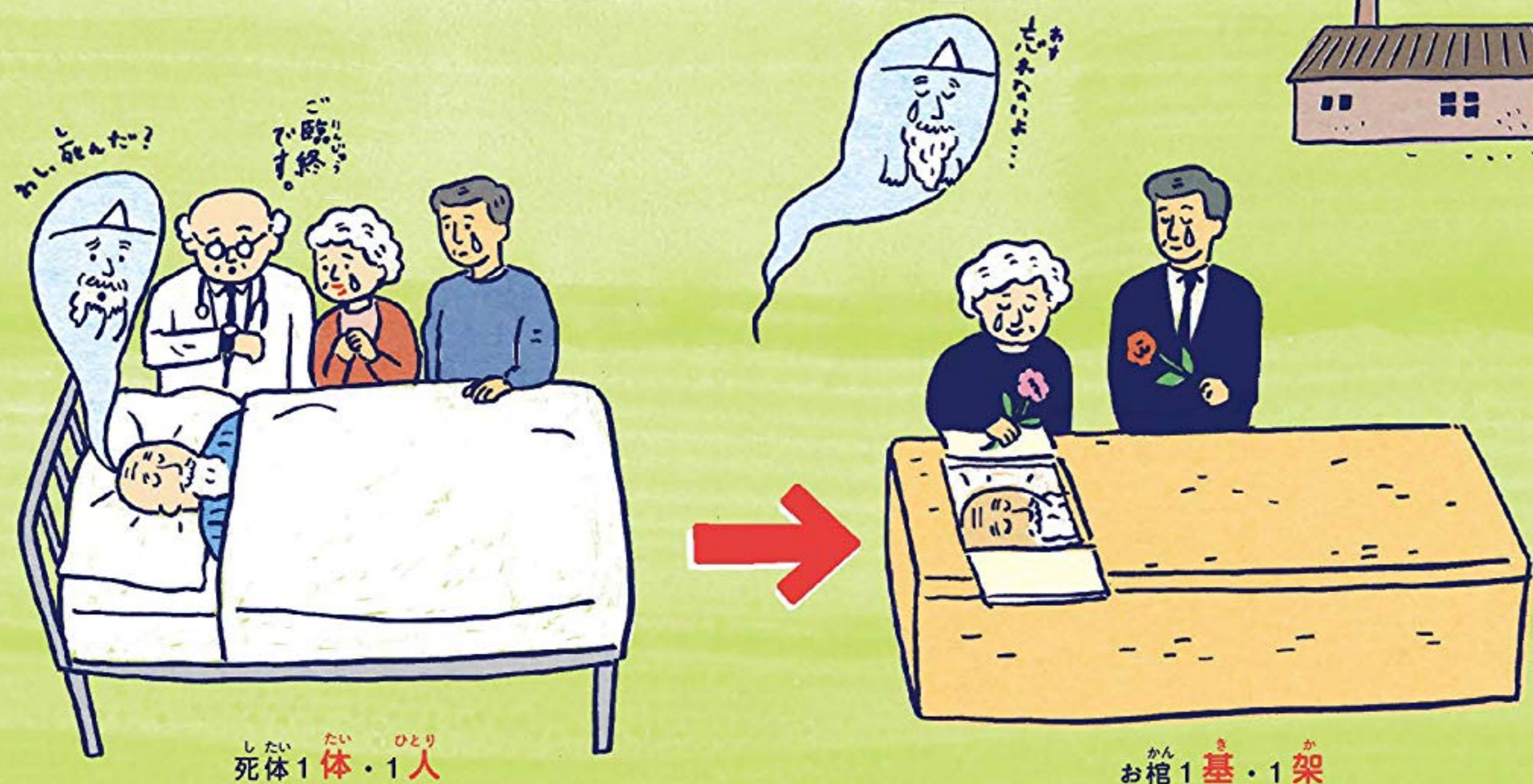
ここは、人びとが暮らしをいとなむ小さな村です。  
 それぞれが、思い思いに活動していたり、  
 集まってスポーツや行事を行っていたり。  
 命を終えて、死後の世界へ旅立とうとする人もいますよ。





# 死んだあと、 人の数え方はどんどん変わる!

このページでは、人の数え方のおもしろい変化を見ていきましょう。  
人はふつう「人」か「名」で数えますが、これは生きているときだけ。  
死んだあとには、姿も数え方も、どんどん変わっていきます。



死体1体・1人  
**体 人**

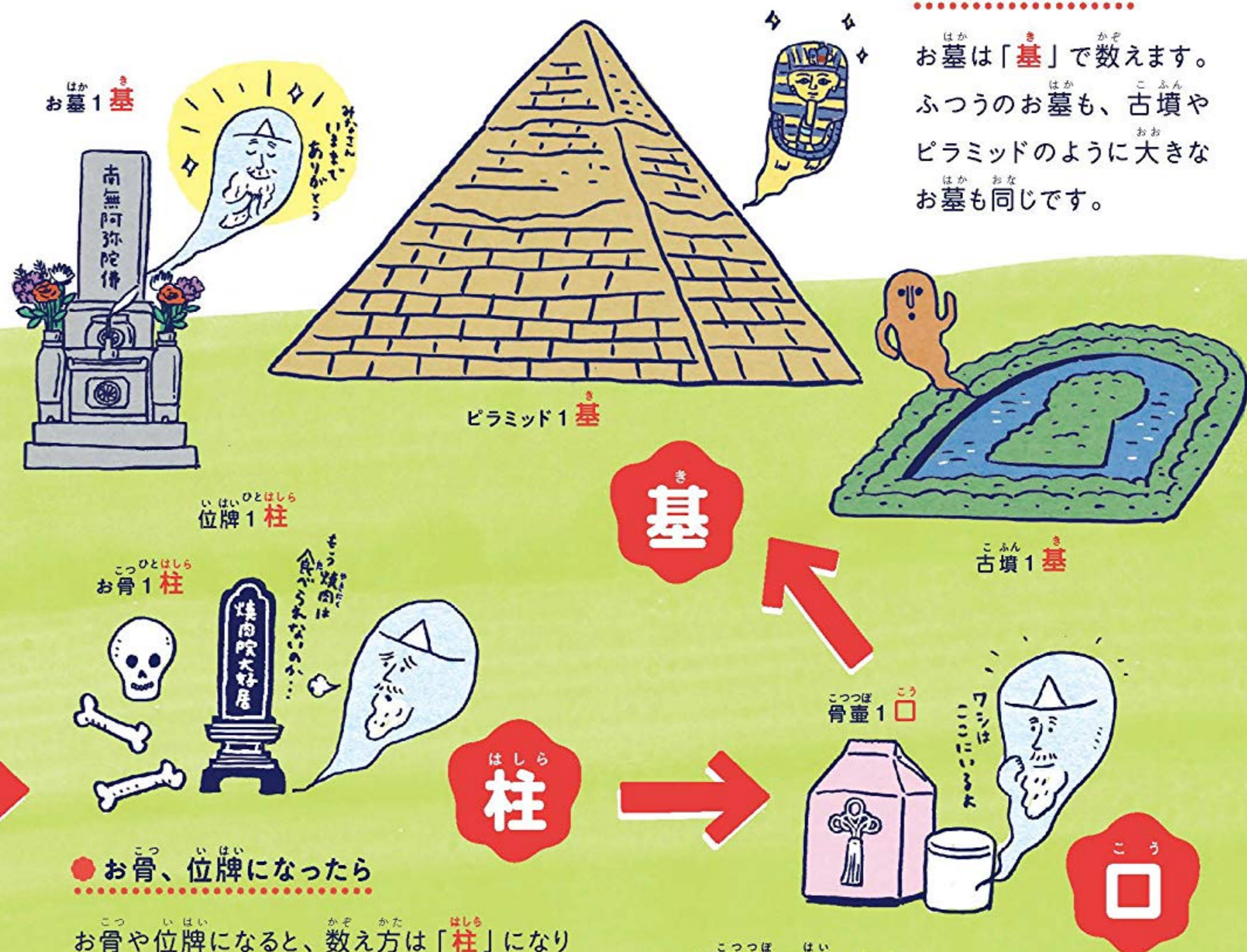
お棺1基・1架  
**基 架**

## ● 寿命を終えたら

寿命を終えて死体になると「体」で数えます。ただし身元がわかる場合は、「1人」「2人」と「人」で数えることもあります。

## ● お棺に入ったら

死体はお棺に入ります。お棺は「基」または「架」で数えます。そして火葬場へ運ばれていきます。



## ● お墓に入ったら

お墓は「基」で数えます。ふつうのお墓も、古墳やピラミッドのように大きなお墓も同じです。

## ● お骨、位牌になったら

お骨や位牌になると、数え方は「柱」になります。むかし日本では、神様を数えるときに「柱」を使っていて、人は死んだら神様になると考えられていたからです。

## ● 骨壺に入ったら

お骨を入れる骨壺は「口」と数えます。「口」は、口が開く入れものを数えるときに使います。

## ルール

- \* 人を、「人」「名」で数えるのは、生きているときだけ。
- \* 死んだあとは、「体」「基」「架」「柱」「口」「墓」と、その姿・形によって数え方が変わる。





# 架空の生きものの海辺

ここは天使や悪魔など、架空の生きものがすむ海辺です。

仲よくなれそうな生きものはいるでしょうか？

じつは、架空の生きものの数え方は、  
人間との関係と深く関わっています。

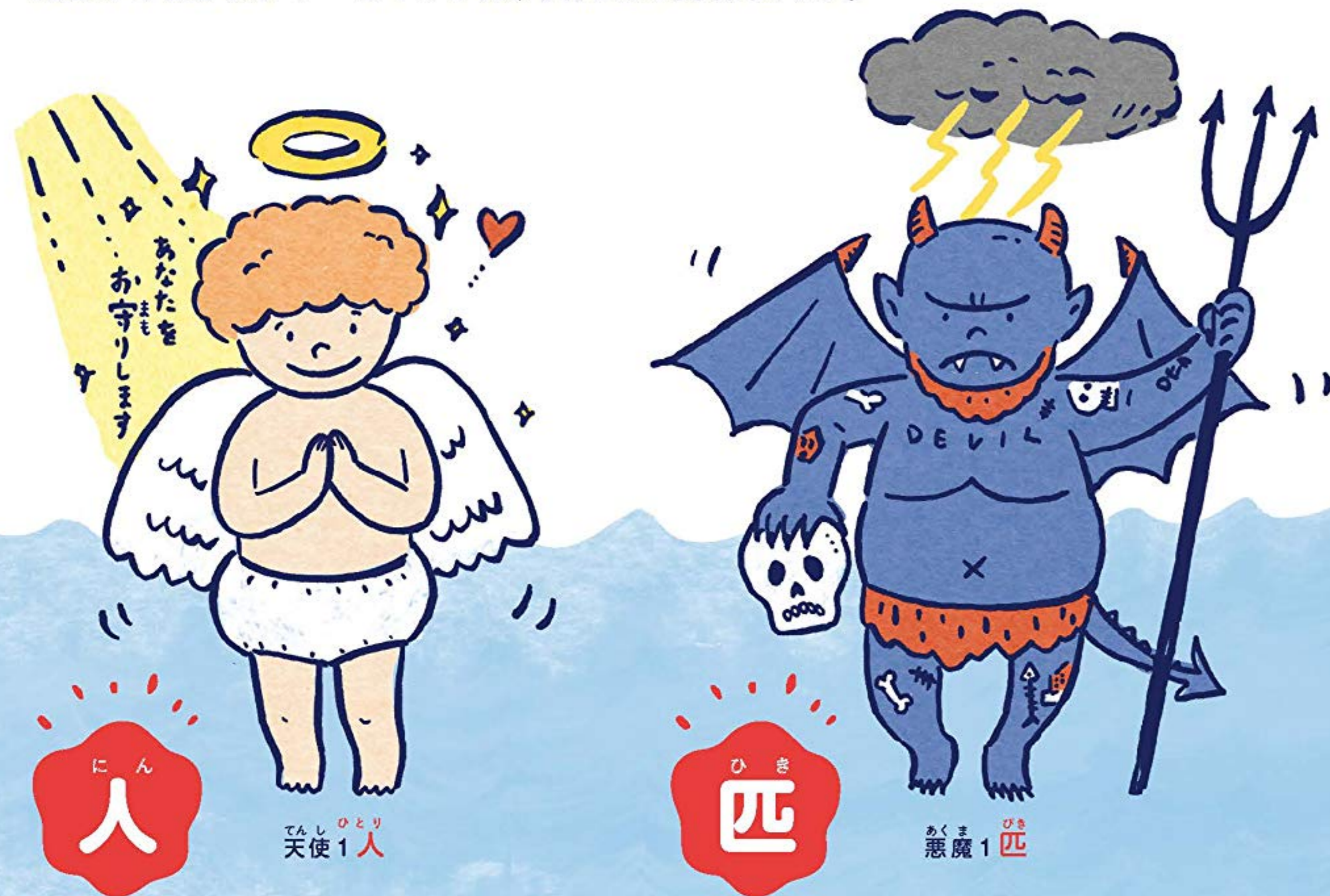




# 天使と悪魔、人魚と鬼……

## 数え方で人間との関係がわかる!

アニメやゲーム、ファンタジー小説には、さまざまな架空の生きものが登場します。その代表的なものは、「天使」と「悪魔」ですよね。いったい、どう数えるのでしょうか？ ポイントは、人間との関係性です。



### ●人間と仲がよいものは「人」

天使はふつう、人間を守る存在ですよね。人間と仲がよく、とても近い存在だと考えられています。そのため、人間と同じように、「1人」「2人」と「人」で数えます。

### ●人間と仲が悪いものは「匹」

悪魔は、人間に悪さをして困らせる存在。人間とは仲が悪く、距離のある存在だと考えられています。そのため、悪魔は動物と同じように「匹」で数えます。

## ルール

- \* 人間と仲がよく、近い存在だと考えられている架空の生きものは「人」で数える。
- \* 人間と仲が悪く、遠い存在だと考えられている架空の生きものは「匹」で数える。



それでは、このルールを頭に入れて、いろいろな架空の生きものを数えてみましょう。



人魚や妖精は、人間と会話することができ、親しみやすい存在なので、どちらも「人」で数えます。これに対して、鬼や怪獣などは、人間を攻撃する仲の悪い存在なので、「匹」で数えます。

ただし、鬼でも人間と仲のよい場合は、「人」で数えることがあります。